

留学報告書 ～挫折から得た経験～

コー大学
経済学部生（中期）

2022年8月16日に日本を出発し、アメリカアイオワ州にあるコー大学に一日かけて到着しました。私はこの留学に行くまでに2年の月日がかかっています。大学4年生での留学派遣は私たちの代が初めてで不安でいっぱいの留學生活でしたが、たくさんの素晴らしい経験をすることができました。楽しい思い出や辛かったことなどたくさんあります。留学に行くまでにこうしておけばよかったという後悔もたくさんあります。留学前や留学中にどのようなことを思ったのか、留学中の出来事を書いていきたいと思います。

私は大学2年生の時にカナダに留学予定でしたが、コロナウイルスの影響により出発できず、そこから2年経ってようやく留学に行くことができました。留学に行けないとわかった時はなぜ今なのだと落胆しましたが、自分が成長するための準備期間としてしっかり準備できたと思います。留学に行くことができなかった2年は私にとって貴重な時間でした。私は経済学部ということもあり、外国語学部よりも英語を話す機会やプレゼンテーションをする機会が圧倒的に少なかったです。大学1年生の1年間では決して補えることのできなかつた力を、2年間でつけることができましたと感じています。もし大学2年生で留学に行っていれば英語力も低く、プレゼンテーション力もないまま行っていたはずなので準備ができてから行けたことに感謝しています。しかし出発が大学4年生の時期ということもあり、出発前は大変な思いをしていました。それは就職活動です。就職活動が終わらないと留学に行くことができなかったため必死に取り組み、出発する2週間前に就職活動が終わりました。終わったことで心置きなく留学に行くことができたため、出発日は不安もありましたが楽しみの方が大きかったです。

コー大学には2年生3人、3年生2人と私の6人でいきました。現地に着くと、違う大学から5人の日本人留學生が来ていたため日本人が合わせて11人いました。日本だけではなく韓国、中国、ネパール、スペイン、ドイツ、トルコ、イギリス、フランスなどからも留學生が来ていました。その留學生と一緒に、大学に着いた次の日から留學生向けのオリエンテーションに3日間参加しました。お互いに留學生ということがわかっているため話がしやすく、全員フレンドリーですぐ打ち解けることができました。その後は1年生が入学してきたため、新入生オリエンテーションに参加しました。そのオリエンテーションで話をした現地の学生とはその後仲良くなり、一緒に映画を見たり夜に夜食を食べたりなど一緒に過ごすことが多くなりました。この2つのオリエンテーションが終わった後に授

業がスタートしました。



(2022年度の留学生)

私が受けていた授業はESLを4つ、ESL以外を1つです。ESLの授業はStructure、Reading Writing、Pronunciation、Listeningの授業がありました。もう一つはバドミン
トンの授業を受けていました。先生によって授業のやり方は変わってきますが、どの授業
も日本の大学の授業とは違い発言をすることが多かったです。教科書を読んでペアで意見
を話し合ったり、課題で考えてきたことを発表したりということをよくしていました。
ESLの授業を受けていたのは日本人、韓国人、中国人だったので話がしやすくすぐに打ち
解けることができました。

アメリカで授業を受けている際に一番苦労したことはプレゼンテーションです。テー
マに沿ったプレゼンテーションを考えて、それを暗記して発表するという事は授業を受
けて課題をこなす中で大変なことでした。ですが他の国の学生のプレゼンテーションを聞
くことは日本ではなかなかないので、新しい発見がたくさんありました。各国の有名な絵
画を紹介したり、女性の働き方を紹介したり、自分の幼少期や将来のことについて発表し
たりなど、国によって考え方や文化が大きく違うということに授業を通して気づくことが
できました。グループで発表することもあり、時間を合わせて準備することは大変でした
が、自分の英語力向上につながったと思います。

バドミントンの授業には現地の学生も何人かいて少しだけでしたが、交流をすることが
できました。どの授業の先生もいい人ばかりで、留学生である私たちに寄り添ってくれる
先生でした。一番の授業の思い出は、ハロウィンの日に先生と一緒に仮装をして授業を受
けたことです。アメリカではハロウィンは大切なイベントの一つなので、仮装をして授業
を受けることができるのだと驚きました。少しカオスではありましたが、いい思い出に
なりました。



(ハロウィンに仮装をした授業)

課外では留学生が主に入る International club に参加していました。9 月には大学近くの山にハイキングに行きました。あいにくの雨でハイキングをすることはできませんでしたが、みんなでランチを食べたり、近くの公園で遊んだりして仲を深めることができました。

10 月には International club の最大のイベントである Culture show がありました。このイベントは各国から来ている留学生の自国の文化を披露するイベントです。毎年行われているもので、私は韓国の子たちと一緒に K-POP ダンスを踊りました。毎日授業が終わった後に集まってみんなで練習をして、本番までに仕上げていきました。本当は日本人でも何かしようと考えていましたが時間が合わず、日本グループとして参加することはできませんでした。K-POP はアメリカでも人気なので、いろんな人からあなたたちが一番よかったですと褒めてもらえました。その言葉が一番嬉しかったです。

11 月にはクラブのみんなとシカゴ旅行に行きました。この旅行は普段仲がいい人たちと一緒に行ける旅行なので、楽しかったことを覚えています。シカゴシアターに行ってライオンキングを見たり、ビルに登って夜景を見たり、シカゴで有名なシカゴピザを食べたり充実した旅行でした。

12 月には International club 最後のイベントである Farewell party がありました。1 学期で帰る留学生向けに開いてもらい、最後みんなで写真を撮ったりプレゼントをもらったりしました。月に 1 回程度のクラブ活動でしたが、たくさんの友人と出会えることができた最高のクラブでした。

大学外では学生だけではなく、たくさんの人と交流することができました。大学近くに農場がありその農場を運営している人が、定期的にイベントを企画してくれていました。そこにはたくさんの動物がいて馬に乗せてもらったり、犬や猫を触らせてもらったりしました。その農場には 30 人くらいの人が集まっており、動物を触っている人もいれば夕食を食べている人、話をしている人など自由に時間を過ごしていました。私は日本ではなかなか経験できない大きなトラックに乗せてもらったり、四輪のバイクのようなものに乗せてもらったりしました。その後も定期的に会うことがよくありました。

また私にはホストファミリーがいました。ホストファミリーはファザーとマザーの 2 人だけです。私が日本人で英語がそれほど得意ではないとわかっていても積極的に話しかけてく

れたり、勉強のために身近にあるものの英語をたくさん教えてくれたりしました。ホストファミリーとは一緒にハイキングをしたり、バーベキューをしたり、アメリカの伝統的な料理を食べたり、ジャックオランタンを作ったり、クリスマスを過ごしたりと多くの経験をさせてくれました。クリスマスにはプレゼントももらい、離れるのがとても寂しかったです。

留学はいい思い出ばかりではありませんでした。私は留学中に悩んでいたことがありました。それは留学に行くことがゴールになっていて、留学先で自分から英語を話そうとしていなかったことがありました。やっとの思いで来た留学も、日本に帰れば全く使うことがないと気づいたからです。私は就職活動を終わらせて留学に行ったので、大学に在学するのはあと少しだけでした。大学にいれば英語を使うことが増えるため、留学先でもこのような悩みはなかったと思います。ですが私の内定先は英語とは無縁の会社でした。今ここで頑張っても、使うことはないのに意味があるのかと思っていました。授業を受けていても他の日本人学生は積極的に発言しているのに、私は発言することすら億劫になっていました。頑張っている学生を見てもなかなか頑張れない自分に嫌気が差していましたが、ルームメイトのおかげで後半はこのような悩みも無くなりました。

私のルームメイトはネパール人で私よりも3歳年下でした。私たちは口数が少ない方で必要なことしか話さないことが多くありましたが、常に気を使いあえる関係でした。そんなルームメイトがある日私に「あなたの英語はすごく上手だね」と言ってくれました。私はなぜルームメイトがこのように言ってくれたのかわかりませんが、この言葉を聞いて私が悩んでいたことはなんだったのだと思うようになり、この日から自分の英語が恥ずかしく無くなりました。留学に行って一番感じたことは、日本では気にしてしまうようなことでも海外ではなんともないことで、それほど気にしなくてもいいことなのだということです。自分らしくいることが一番いいことだと気づきました。

この留学を通して私はたくさんのかたちを経験し、最高の人たちと出会うことができました。同じ留学生や現地の学生、先生やホストファミリーなど私がアメリカで出会った人たちは日本で出会うことができなかつた人たちです。もしもう一度留学に行くことができるなら、迷いなく留学すると答えるくらい楽しく充実した日々でした。日本にいる家族や友人、現地で出会った人たち、仲良くしてくれた友人に感謝の気持ちでいっぱいです。

